

第2学年 図画工作科学習指導案

指導者

1. 題材名 形の「かくれんぼ」

2. 目標

造形への 関心・意欲・態度	○ 不定形に切り取った画用紙から、思い付いたものをかくことを楽しもうとする。
発想や構想の能力	○ 不定形に切り取った画用紙の形から、表したいものを思い付くことができる。
創造的な技能	○ 不定形にかきたいものを、形や色を工夫してかくことができる。
鑑賞の能力	○ 自分や友達の発想のおもしろさや作品のよさを、感じ取ることができる。

3. 学習指導計画（2時間目／全3時間）

- (1) かいたものを切り取って裏返し、思い付いたものをかく。
- (2) **不定形に紙を切り分けて、絵をかき、パズルをつくる。(本時)**
- (3) 友達とパズルをして遊んだり、いいところを伝え合ったりする。

4. 課題解決のための手だて

本学級の児童は、図画工作科の時間を楽しみにしており、どの題材にも楽しく取り組んでいる。図画工作科に関するアンケートでも、「つくっていると楽しくなるから」「作品ができるとうれしいから」といった理由で、図画工作科の学習が「好き」だと答えた児童が、約80%いた。一方で、「つくりたい感じを見付けること」や「つくりたい感じにつくること」に苦手意識をもっている児童も多いことが分かった。また、それらの児童の中には、黒板や掲示物を見たり、参考作品を見たりして、「自分で考えてつくる」とし、「相談しながらつくること」の活用ができていない児童も多いことが分かった。

このような実態から、偶然から生まれた面白い形との出会いをきっかけとして学習を展開していく本題材を通して、材料や友達とかかわりながら、自分が表したいことを見付けてつくることの楽しさを本学級の児童に味わわせていくことは、意義深いと考える。

【手だて1】題材との出会わせ方や、学習展開の工夫

- 第1時で、1つの形が見方を変えたとちがったものに見えるという面白さと出会った児童に、第2時では、「長方形の画用紙を切ることから新しく生まれた形を見立ててパズルをつくらう」という提案をする。この時、教師がつくったもので見立てをしたり、一緒に紙を切ったりするところから活動を始めるようにしたりすることで、児童が見通しをもち、「できそう」「やってみたい」という思いをもつことができるようにする。

【手だて2】考えを深めたり広げたりするための工夫

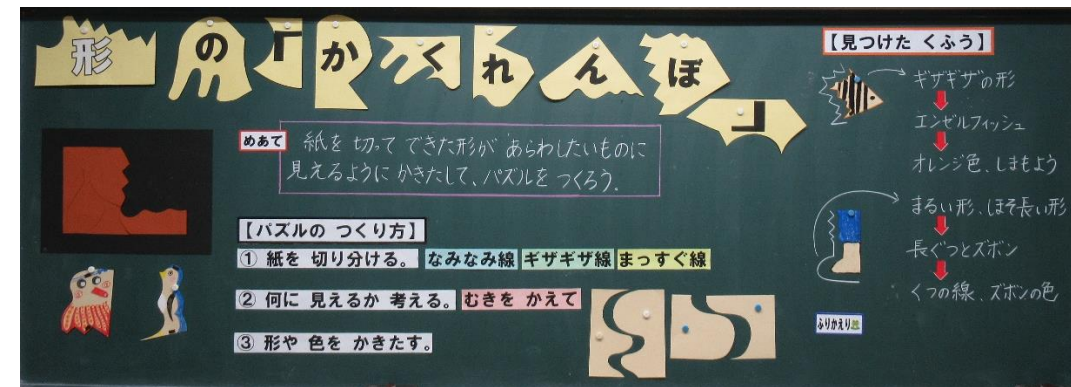
- 表す場面では、形をいろいろな方向から見たり、見立てることを楽しんだりする時間を大事にする。このとき、グループの友達の顔や、つくっているものが見えるような場にして活動させたり、つくっているものを見合う時間をとったりすることにより、友達の見方や表し方のよさに気付いたり、自分の表現に生かしたりすることができるようにする。

【手だて3】振り返りや、学習評価の工夫

- 自分や友達の表し方のよさや学習を通しての気づきについて、題材にかかる全時間を1枚のワークシートに記入できるようにしておく。振り返りの視点は、活動の段階に応じたものにしておくことで、児童も教師も活動の足跡を見取りやすくするとともに、次時の活動に生かすことができるようにする。

5. 本時の学習 令和元年10月9日（水）
第5校時 於：2の1教室

(板書)



(3) 展開 (○指導上の留意点、◆評価規準【観点】(評価方法))

である	みつける・あらわす (個人思考①)	(集団思考)	(個人思考②)	あじわう(振り返り)
<p>1. 前時の学習を想起し、本時のめあてを確かめる。</p> <p>(1) 教師の作品例を見て、考えを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 画用紙を切り分けることで、もとの四角形の中に、新しい形が生まれることに気付くようにする。 ○ かくれた形を見つけたり、どうすればその形の面白さをより味わったりすることができるかについて、考えを出し合うことで、活動の見通しをもつことができるようにする。 <p>めあて 紙を切ってきた形があらわしたいものに見えるように、形や色をかきかため、パズルをつくらう。</p> <p>(2) はさみをいろいろな方向に動かして、紙を切る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ はさみを、安全に気を付けて、正しく使って活動することができるように、使い方を確かめる。 ○ 偶然から生まれる形の面白さを体験することができるように、いろいろな線で切り分けるようにする。 ○ 線を「ギザギザ」「なみなみ」など、言葉に置きかえることで、いろいろなはさみの動かし方を意識することができるようにする。 ○ 切り分ける回数を決めて切り、形が小さくなりすぎないようにすることで、形や色をかき足しやすいようにする。 ○ 音楽をかけて、楽しい雰囲気の中でつくることができるようにする。 	<p>2. 画用紙から切り取った形から思い付いた形や色をかき足す。</p> <p>(1) 形を見立てたり、形や色をかき足したりして、パズルをつくる。(個人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 紙の表と裏に気を付けてかくように、声をかける。 ○ 形をいろいろな向きに動かして、見るようにする。 ○ いくつかの見立てをする中から、いちばん表したいものを選んでかくようにする。 ○ 向かい合って活動することで、自然にお互いの表現を見合ったり、友達と対話したりしながら、つくることができるようにする。 <p>【予想される児童のつまずき】</p> <p>① 見立てることが難しい。</p> <p>支援：「(グループの友達の見方を聞いて) 何に見えるか。」「(形の一部分に注目させて) 何に見えるか。」</p> <p>② 表したいことは決まったが、表し方を見つけることが難しい。</p> <p>支援：「○○の部分からかくのは、どう。」「(表したいことには) どんな形や色がありますか。」</p> <p>③ 伝える表し方ができていない。</p> <p>支援：「どんな形や色をかき足すとよさそうですか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の表し方のよさや面白さを認め、児童の思いを生かした支援につながるように、声をかける。 	<p>(2) 友達がつくったものを見て、表し方のよさや面白さについて、話し合う。(全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな表し方に触れることができるように、全体を見て回るようにする。 ○ どんなものに見立てているか、どんな形や色をかき足しているかといった、表し方のよさを見付けるための視点を確かめてから見合うようにする。 ○ 全体交流の場では、見付けたよさの中から、「切った線に注目する」「特徴的な形や色をかき足す」といった点を、児童の作品を例に挙げ、具体的に挙げる。このとき、次につくるときに、表したいことを見付ける手がかりにしたり、より表し方を工夫してついたりすることができるようにする。 ○ つくったものを紹介するときは、どんな表し方のことを話しているのかが、どの児童にも見やすく、伝わりやすいように、携帯型書画カメラを活用する。 	<p>(3) 表したい感じになるように工夫してかき、パズルをつくる。(個人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全体交流の場でみんなで見付けた、表し方の工夫を生かしてかくようにする。 ○ 全部のパーツができてきた児童には、1つ1つのパーツにかき足した形や色についてや、パズル全体の色などの視点から、より工夫するように、声をかけたり、表し方を一緒に見付けたりする。 <p>◆ 不定形にかきたいものを思い付き、形や色を工夫してかいている。【創】(作品、行動観察、ワークシート)</p>	<p>3. 本時の学習を振り返り、次時の学習について話し合う。</p> <p>(1) 自分や友達の表し方のよさや、活動を通して感じたことや気付いたことを、伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分や友達がつくったもので、気に入っている表し方を紹介したり、活動を通して変わった見方や感じ方などを話したりすることで、自己の変容や、学びの深まりに気付くことができるようにする。 <p>(2) 次時の学習について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習の振り返りをもとに、次時の学習について考えることで、次の活動への見通しをもつことができるようにする。

0分 15分 27分 32分 42分 45分

